

第12回

住まいと

コミュニティ

づくり

活動助成



活動地域：大阪府大阪市

概要：

「大阪くらしの今昔館」(住まいのミュージアム)は、「なにわ町家の歳時記」(天保年間の大坂の町を約1100平方メートルの空間に再現した展示)と「モダン大阪パノラマ遊覧」(近代大阪の代表的な住まいと暮らしを模型や資料で再現した展示)の2つを中心として構成されています。当団体は、同館のミュージアム・ボランティアとして、館創設と同時に結成され、展示の案内を中心に、餅つきや節分などのイベントや昔の遊びのワークショップ(お手玉づくりやからくり玩具づくりなど)など、来館者に楽しんでもらうための活動を行っています。助成対象活動では、地元・天満を取り上げた企画展を開催するための活動を行いました。大阪天満宮の門前町として栄えた天満は、日本一長い商店街「天神橋筋商店街」(約2.6km)を抱え、庶民的な町並みの大阪らしい住まいと暮らしがある町。その天満に残っている「お宝」を発掘・展示し、地域を元気にしようという活動です。学芸員の指導を受けながら、毎月数回の会議を重ねるとともに、地域に足を運び「お宝」の発掘をし、企画展を成功させました。

〔町家衆〕

- ・ 代表者：西 多鶴雄
- ・ 連絡担当者：小塩 米緒
- ・ 連絡先：〒536-0008 大阪府大阪市城東区関目 3-1-9-309
- ・ TEL：06-6936-3150
- ・ FAX：06-6936-3150
- ・ E-mail：jun.t.sekime@nifty.com
- ・ ホームページ：http://homepage3.nifty.com/sekime-ss/museum-gaisetu2.htm

1 団体の目的と経緯

目的：

大阪くらしの今昔館において来館者に大阪が培ってきた優れた住まいの知恵や様式をわかりやすく伝えること

経緯：

館の創立以来ミュージアムボランティアとして登録しているメンバーが、大阪の住まいの歴史や文化を学んだ後、組織を立ち上げた。

町家衆は、「大阪くらしの今昔館」(大阪市立住まいのミュージアム)のミュージアムボランティアとして、館創設(2001年4月26日)とともに結成されました。

大阪くらしの今昔館は、いまからおよそ170年前(幕末天保年間)の大坂商家の町並みを、あくまで当時の工法にこだわり原寸大で再現したミュージアム(博物館)です。したがって再現されたその時点で、この建物そのものが既に文化財です。けっして昨今流行(はやり)のテーマパークではありません。そして当館の最も大きな特色(ポイント)は、単に古い町並みを再現して見せるだけではなく、当時そこにいた、あるいはその町並みで暮らしていた商人(町民)の暮らしぶりをも再現しているところです。私たち町家衆は、創設以来その様な当時の「くらしの再現」について取り組み、様々な試行錯誤を繰り返してきました。活動3年目を迎え、そうした蓄積に加えさらに一歩先を見据えた新しい活動を試行(腕試し)したい、という意欲と熱意でこの助成事業に応募しました。

2 活動の内容

(1) 基本理念(行動目標)

「大阪くらしの今昔館」は大阪市立住まい情報センターの一部(最上階)にあります。この施設は住まいに関する最先端の情報をつねに発信し続ける基

地として創設されました。したがって誕生したその日から、当館は「くらし」に関する様々な資料(情報)を集積し、またそれを広報し続ける宿命を背負っています。

当館は、太閤秀吉が拓いた大阪三郷の一つ「天満地区」の一角にあります。中心部には平安の古(いにしえ)に遡る天満天神社(大阪天満宮)もあり、古くから多くの歴史に囲まれた由緒ある地域です。私たちはそんな特色ある地域の歴史を訪ね、できるだけ多くの「くらし」に関する資料(お宝)を集積し、また展示してそれを多くの市民に知ってもらいたいと考えました。

(2) 行動計画の基本方針

ボランティア活動(の動機付け)の成否は、その行為を通し各個々人の価値観や好奇心がどれだけ満たされるか、その度合いによって決まります。また夫々異なる価値観に対し、どれだけ近い公約数を見出すかも、より大きな成果を生み出す上で大変重要です。

定例(戦略)会議の設置

隔週の日曜日、定例の総合(戦略)会議を開催しました。討議はできるだけプラス思考で行い、全員合意の議決を原則としました。またその内容を克明に議事録に収録し、必ず次の会議の席上全員で確認しました。

「想い入れ箱」の設置

具体的に何をするのか、これから行う自分たちの行動を自らの発想と自由意志で決めるべく夫々がその想いを記入し投票しました。

「座」の開講

投票された夫々の想いを公開し、興味が一致する者同士が一つの「座」を開講し、協同することにしました。



天保年間の大坂の町が再現されている館内



定例会議の様子

実践的（機動隊）会議の設置

どんなに立派な計画であっても、実際にそこへ行って取材しなければ具体的成果は得られません。町家衆が唯一持つこの弱点に、暫く悩まされました。が、多くのメンバーの熱意と支援で毎週金曜日、行動する実践会議が開催される事になりました。

全体工程表（行動計画表）の作成

いましている自分たちの行動や、いままであるいはこれから為すべき自分たちの仕事など、つねに自分たちの位置が確認できる全体工程表を作成し、随時公表しました。

（3）基本構想の提案

（ボランティア）集団が同一歩調で一つの目標に向かって行動する、そのために重要なもう一つの要素はともに到達するその先の姿をできるだけ早くそして具体的に示すことです。（イメージの共有化）

（4）基本コンセプトと具体的活動の内容

この展覧会の特徴（ポイント）を私たちは次の2点に大きく絞り込みました。（活動内容の明確化...物の展示から想いの展示）

所詮ボランティア（素人）集団が取材して集めた展示品は、多分プロの学芸員の目から観ると展示価値に乏しいものでしょう。それを補う方法は、私たち町家衆が自らの足で稼いだ情報即ちその展示品に込められた所有者の願いであるとか想いみたいなものを、自ら直接入館者に語り伝えるしかありません。つまり入館者とその会話を通し初めて私たちの展示が完結すると思ったのです。いつも会場内にいっぱい町家衆が屯している訳で、これまでの展覧会に比べると異なった風景になるでしょう。

この発想を更に一歩進めた試みとして、展覧会場内にイベントステージを設けました。具体的に

は、廃校になった小学校の教室から机を譲り受け、それ自体が展示品ですがそこで実際に元教師（OB）の町家衆が「むかしの授業」等をしてしまうという企画です。

（5）関連活動

この展覧会に時期を合わせ、地元の地域情報誌「天満人」が発売されました。特集記事でこの展覧会を扱っていただき、その内容は私たち町家衆にとって永久保存版的図録になりました。また、会場でも展示された辻本氏の資料は、今後シリーズで連載されるという波及効果も生まれました

3 活動の成果

（1）直接的成果

展覧会そのものの成否（成果）

展覧会の入場者数が2005年4月3日（日）に1万人を突破致しました。最終日（4/10）には当初の予想を大きく上回る結果を出し数字の上でも大成功を収めました。

町家衆自身が獲得したもの

- ・ 本展覧会のために新たに作成した新バージョンの紙芝居等は、そのまま明日からの日常活動に活かせます。
- ・ これまで比較的活躍の場に恵まれなかったメンバーの多くが、会場内のイベントステージを活用し一気にその才能を発揮しました。
- ・ 入会間もないメンバー（町家衆3・4期生）もその多くが、この機会を利用して自分の活躍する場（居場所）役回りを比較的早く確保できた様に見受けられます。



西天満旧家での取材調査の様子



展覧会コンセプト創りに影響を与えた
大阪天満宮文化研究所の取材

(2) 間接的成果(波及効果)

大阪くらしの今昔館と地域の関係

町家衆による展覧会開催、ならびに事前の調査取材を通し、当館がこれまで単に天六(天神橋六丁目)にある一建物だけの存在から、この度晴れて天六の一住人として仲間入りができた実感する手応えを感じました。

- ・ 入館された天神橋商店街の店主から、「これが出展できるのであればうち(当店)にだってもっと貴重な資料があるでー」という声が聞こえてきました。
- ・ 事前取材調査の局面で、「そんな事、もっと早く言ってもらわなー」「ついこの間息子の代で改築したとき、全部捨ててしもたがなー」という嘆きを何度も聞きました。しかもそれらの多くが、既に館が創設されて以降の話でした。冒頭に記した当館の使命からしますと、まことに慙愧に耐えない話です。
- ・ 上記2点は、これからは「先ず館に問い合わせてみよか?」と思考していただける、微かな可能性を感じる手応えであり、館にとって最も大きな収穫(成果)であったと思います。
- ・ このことはまた、この助成事業の基本精神に合致するところでもあると考えられます。

町家衆が獲得したもの

- ・ 通算40日間、ともに戦い抜きそしてある程度の結果を出した達成感、充足感、それは何ものにも代え難い充実感です。「やってよかった」「途中投出さず続けてよかった」と、全員が感じています。今回の活動を通じお互いの信頼感が生れ、そして今後次の新たな課題に対しても躊躇することなく挑戦できる、そんな自信を得た気が致します。



入場者数が一万人を達成する直前

- ・ 町家衆にとってこれが一番大きな成果(収穫)であり、実は狙った効果でもあります。それはこれからは集団として生きて行く上で最も大事なものの・・・集団の意思として、ものごとを決めるルールづくり(仕組み)を実際に体験し習得できたことです。これまでややもすると誰か一人の意向だけで決まっていたことがら、これからはそれがもう許されない新ルール(システム)であり、もしこれが定着できれば素晴らしい事だと思いません。是非そうしたいと願っています。

4 今後の取り組み

これからは類似する主題で、同じ様な活動をするかどうかは全く未知数です。その前にこの活動で当館が得た「地域の一員」としての役割を、今後どのような形で担ってゆくべきなのか? その具体的な仕掛けづくり(シナリオ)が当面大きな課題として残されました。しかしその先でもし、私たち町家衆のパワーが再度必要とされる局面に出会ったとしても、多分そこには前向きに挑戦する町家衆の姿があることでしょう。



「こんな天満を見つけまし展」パンフレット



昔の大阪の町並みを説明している様子
来館者が熱心に聞き入っている



大阪市住宅局企画部住宅政策課発行「あんじゅ」2005年夏号
「こんな天満見つけまし展」掲載ページ



天満人の会発行「天満人」第3号「こんな天満見つけまし展」掲載ページ



南京玉すだれ実演の様子



平均抽選倍率2倍以上「むかしの給食」